

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策 I-6-1 高速道路網の整備
---------	-------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	道路建設課長 井田 悦男	電話番号	0852-22-6456
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	高速道路インターチェンジへ短時間でアクセスするための道路整備		
目的	(1) 対象	県民・道路利用者	
	(2) 意図	高速道路インターチェンジ（IC）へのアクセス時間を短縮する	
事業概要	高速道路インターチェンジへアクセスする道路を、国庫補助事業や交付金事業、あるいは、県独自の道路整備事業を活用して整備し、インターチェンジへの短時間アクセスを実現する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			高速道路ICへの30分以内到達圏域面積の割合	目標値		53.00	57.00	58.00	
		インターチェンジへの30分以内到着が実現する地域の面積/県全体の面積（ただし、隠岐は除く）	実績値	52.00	53.00	56.60	58.40		%
			達成率		100.00	99.30	100.70		%
	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			%
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,501,866	2,906,819
うち一般財源(千円)	297,866	286,463

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

高速道路の整備が順調に進んでいることに加え、道路予算が減少する中においても、インターチェンジへのアクセス道路については重点的に予算配分しており、成果指標は目標値に達している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年3月14日、山陰道仁摩温泉津道路（仁摩石見銀山IC）、浜田三隅道路（原井IC、浜田港IC、西村IC）がそれぞれ供用開始したことに加え、県道浜田港インター線などICアクセス道路の整備を進め、大田市、浜田市を中心にIC30分以内到達圏域が拡大した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
ICアクセス道路の整備は、多額の事業費を短期間に集中して確保する必要があるが、臨機応変に予算を配分していける見通しが立たない。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
財源となる国の交付金については、個別の事業毎の配分ではなく、大きな枠毎での配分となっており、特別な需要に応じた要求が反映されにくい状況となっている。
- ③原因を解消するための「課題」  
地域の実情に応じた国費の配分

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

国に対し地域の実情に応じた予算が配分されるよう丁寧に状況を説明するとともに、国の予算配分方針等を的確に把握し、工夫しながら、必要な予算が配分されるよう要望していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）